

かつしかごみ減量リサイクル推進協議会 第7回区民啓発活動部会結果

(開催日：平成26年7月1日)

第7回区民啓発活動部会では、部会長の選出を行い、平成26年度の取り組みとして、「かつしかルール」、「ごみ減量の日」、「ごみ減量月間の実施」についての検討を行いました。また「ごみ減量キャンペーン」についての今後の方向性についても検討いたしました。

そして、今回の検討結果については7月16日に開催される推進協議会で提案していくことが確認されました。

1. 部会長の選任について

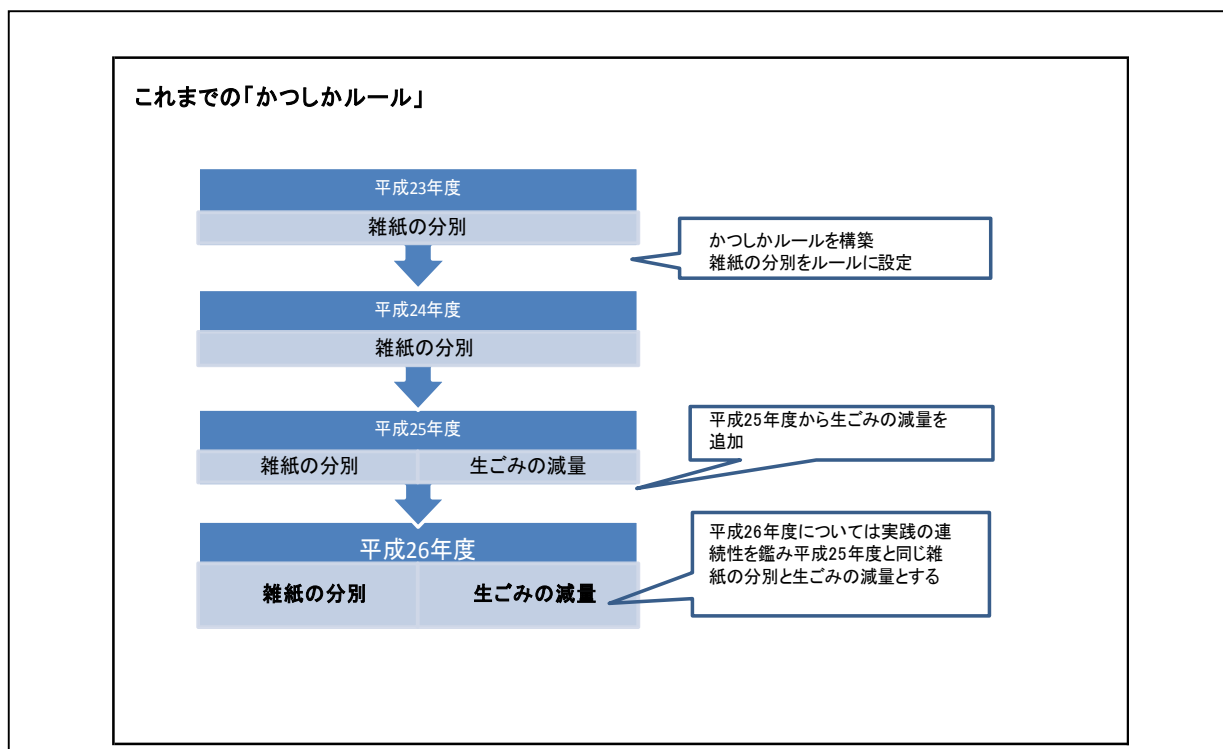
今回委員の退任にあたり、部会長が不在となった。よって「かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会部会設置規約」第5条に基づき、部会長の選任を行った。

2. 平成26年度「かつしかルール」 具体的取組について

かつしかルールとは
「ごみの量を減らし、
資源を良質なりサイクルにつなげるために、
みんなで行う取組」

- ① 容易に実践でき
- ② 多くの人が取り組むことができ
- ③ ごみ減量やリサイクルに貢献する誇りを持って取り組めるもの

(1) 平成26年度「かつしかルール」について



＜平成26年度のルール＞

『生ごみの減量に取り組む』

『雑紙（ざつがみ）を徹底して分別し、資源にする』

(2) 「かつしかルール」の目標値の設定

(ア) 『生ごみの減量』の目標値

- ・キャンペーン等での意識調査で生ごみの減量を実践している割合が80%以上

(イ) 『雑紙の分別』の目標値

- ・キャンペーン等での意識調査で雑紙の分別を実践している割合が80%以上
- ・燃やすごみから出るリサイクル可能な紙類を、5%以下（平成21年度を基準とし2%減を5年）

(3) 平成26年度の具体的な取組

(ア) 広報紙での周知（9/5号）

ごみ減量月間の特集記事において「かつしかルール」の内容についてPRする。

(イ) 町会回覧での周知（年2回）

自治町会連合会の町会回覧向けに、生ごみの減量に必要な水切り・食べ切り・使い切りを促進する内容のチラシを作成し、回覧を行う。

(ウ) 小売店・事業所などでの周知（年2回）

葛飾区商店街連合会、東京商工会議所葛飾支部で啓発ちらしを会員事業所に配布してもらう。この中で、区内事業者に雑紙の資源化促進をPRしていく。

(エ) ごみ減量キャンペーンでの周知

ごみ減量キャンペーンでアンケートに生ごみや雑紙に対する意識調査を継続するほか、生ごみの減量に関するちらしの配布を行う。

(オ) イベントでの周知

9月に開催される産業フェア、10月に開催されるごみ減量・清掃フェア等の各種イベントにおいて、体験型のゲームを通じ、広く「かつしかルール」について周知する。

(カ) 普及啓発グッズの配布

生ごみの減量を促進するため、イベント時に「かつしかルール」をPRした普及啓発グッズを配布する。今年度についてはマイ箸セットとクリアファイルを配布し、食べ切り等について呼びかけを行う。

(キ) 区のホームページでの周知

葛飾区のホームページの「かつしかルール」のページで生ごみや雑紙に関する各種情報を提供する。

(ク) かつしかFMでの周知（年3回）

かつしかFMのスポットCMで「かつしかルール」や「生ごみの減量」についてのPRを行う。

(ケ) ごみの収集カレンダーでの周知

3月に配布予定の資源とごみの収集カレンダーに「かつしかルール」のPRのページを作成し、説明を行う。

(コ) 出前講座での周知

職員が実際に地域に出向いて実施する出前講座で「かつしかルール」についての説明を行うとともに生ごみの減量に関するチラシの配布を行う。

(4) 今後の「かつしかルール」の取組について

雑紙の分別徹底については、平成23～26年度の4年間、生ごみの減量については平成25・26年の2年間にわたって取り組んでいる。

「かつしかルール」の成果指標は現在、アンケートによる意識調査が主なものとなっているが、今年度ごみ性状調査を実施することから、平成27年度の「かつしかルール」についてはアンケートによる意識調査に加え、この性状調査の結果をふまえて成果の実証確認を行い、検討していく予定である。

25年度に引き続き、「生ごみの減量」と「雑紙の分別」を個別ルールとし、「生ごみの減量については、これまでの水切りの取組に加え、食材の食べ切りや使い切りなどさらに踏み込んだ内容について取り組んでいくことで承認された。

3. 「ごみ減量の日」の取組について

かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会では、毎月5日を「ごみ減量の日」として区民、事業者それぞれの取り組むべき目標を提示し、呼びかけることにより、ごみの減量に対する活動の全区的な広がりを図っている。

概ね半年ごとを目安として区民向け、事業者向けのそれぞれの重点活動内容を定め、広報紙やチラシ等で広くPRし、区民や区内の各事業者が取り組んでいる。今回は具体的PR方法と平成26年10月から27年3月までの取組内容について検討する。

(1) 平成26年4月から平成26年9月までの取組み内容

・区民の皆さんは…お買い物に出かける前に、今必要な食材が何かを考えることで、無駄に捨ててしまう食材を減らしましょう

(2) 平成26年10月から平成27年3月までの取組み内容（案）

下記の通り案を提示する。

【A案】

(区民の皆さんは) 食べ残しをしないように工夫しましょう。

消費者庁によれば、日本の家庭では一人当たり1年で60食分の食べ残しがごみとして出されています。一人ひとりが「もったいない」という意識を持って、まずは多く作りすぎないことが大切です。もし余ってしまったら冷凍して保存したり、他の料理に作りかえるなど食べ残しの出ない工夫をしましょう。

【B案】

(区民の皆さんは) 冷蔵庫の中を整理整頓し、在庫のチェックをすることで食べ残しや古い食材がごみにならないようにしましょう。

冷蔵庫に食べ残しや古い食材を詰め込みすぎていると、奥の見えないところに入れてあった食材がいつの間にか古くなっていたということもあります。冷蔵庫の中を整理整頓し、在庫品の数量や状態等をチェックすることでごみとして捨てる食材を減らすことができます。

上記2案を検討する中で、区民啓発活動部会の意見として【A案】の「食べ残しをしないように工夫しましょう。」という結論に至った。

(3) PR展開

① 区民向けPR

自治町会連合会作成の回覧板（年2回作成）にて区民向け取組のPRを行う。
区内の各駅に設置された広報スタンドにチラシを置き、PRを行う。

② ごみ減量キャンペーンでのPR

10月の「ごみ減量の日」前後に行うごみ減量キャンペーン時に、取組を呼びかける内容を含めたチラシを作成し、配布を行う。

③ その他

「ごみ減量の日」を広く普及する目的で、広報かつしかやホームページ、かつしかエコライフプラザ、かつしかエフエム等を利用したPRを行う。

また、毎月1日から5日までは区役所入口など3箇所にのぼり旗を掲げ、来庁者に対してPR活動を行う。

<委員からの他の意見>

- 子どものころからごみを減らす意識づけが必要。ポスターなどをつくってはどうか。
- A案がよい。消費者庁のチラシを活用できるし、また、給食などでお子さんの意識づけができる。
- PRの方法として小学校PTA連合会や中学校PTA連合会を活用し、学校にチラシ等の配布をすれば効果的ではないか？
- ごみ減量の意にそぐわないのは分かっているが、食品を売る立場として少しでも余分に買ってほしいという思いもある。
- 野菜などは、ばら売り・切り売りのものを買ひ、なるべく必要な分だけ買うように心がけている。
- 子どものうちから学校でごみの分別を指導したほうがよいのではないか。
- 職員が学校に出向いて分別の仕方などを指導することが必要ではないか。

4. ごみ減量キャンペーンの取組について

(1) これまでの経緯

「ごみ減量キャンペーン」も10年を経過している。平成25年度は、区内16会場（4会場雨天のため中止）で実施し、2,324名の方にアンケートにお答えいただき、マイバッグを配布した。その際に、区民の方より「マイバッグはたくさん持っている」「マイバッグでないものを配った方が良い」「マイバッグが小さくて使いづらい」など様々なご意見をいただいた。実際に実施したアンケートの結果では、マイバッグを「2枚～5枚持っている」と回答した方が54%と半分を占めており、「1枚以上持っている」区民の方は9割にのぼっていた。

そうした状況の中で、今後より質の高いキャンペーンを実施していくために、平成25年度の第6回区民啓発活動部会および第14回事業者活動部会において、皆さまにそれぞれ様々なご意見をいただいた。

そこで、

- ① マイバッグの素材にはこだわらず、なるべく利用しやすい物を配布すべき。
また、実際に使ってもらえそうな物を配布すべき。
- ② 望ましいキャンペーンの在り方は、参加する区民・小売店などにより異なる。
そのため運営方法などについては、今後継続して検討していくこととする。

という結論に至った。

(2) 平成26年度の予定

そこでまず今年度制作するマイバッグについては、日頃よりマイバッグを利用されている、葛飾清掃協力会婦人部会・葛飾東清掃協力会婦人部会・葛飾区消費者団体連合会の方々をはじめ、かつしかエコライフプラザで実施したフリーマーケットにお越しいただいた区民の方に、アンケート調査のご協力を依頼した。

その結果に基づき、「ペットボトルの再生生地等、従来こだわりのあった素材にとらわれるのではなく、大きくて肩掛けできる、利用しやすいマイバッグ」を目指して現在制作をおこなっている。

(3) 平成27年度以降の方向性

前回の部会で、「ごみ袋」や「水切りネット」など、「マイバッグ以外のごみ減量グッズを配布するのはどうか」という意見も上がっていた。そこで上記アンケート調査の際に、各会員の方々には、「マイバッグ以外の物で、ごみ減量の啓発につながるようなグッズ」についての希望調査もおこなった。現時点での結果は次ページのとおりである。

《アンケート結果》

グッズ	備考	票数
マイボトル（水筒）		16
ごみ袋		13
フリーザーバッグ		8
三角コーナー用水切り袋		7
マイ箸		3
ふろしき		3
その他	ペットボトル保冷カバー 詰替え用台所洗剤	2

以上のように「マイボトル」、次いで「ごみ袋」、「フリーザーバッグ」の票数が多いという結果になっている。

そこでまず平成27年度は、上記結果を鑑み、以下の通り案を提示する。

【A案】

マイバッグの代わりに上記ごみ減量グッズを配布する。

- マイボトル…自宅からマイボトルに飲み物を入れてくることで、リデュース活動になります。ただし、数を多く作り、配布することの難しさも考慮しなければなりません。
- ごみ袋…ごみ出しの際に目につくことから、表面にPR内容を記載することにより、区民の方への普及啓発にもつながります。ただし、今まで「レジ袋を断ってマイバッグを使う」ことを奨めてきた当キャンペーンの内容とは少し逆行してしまうことも否めません。
- フリーザーバッグ…ジッパーが付いていて食品を密封し保存できる袋。「生ごみの減量」を推進する「かつしかルール」にも合致していて食べ物を「使い切り」することができる優れたものです。上記アンケート結果では第3位の票数となっています。

【B案】

当日マイバッグをお持ちでない方にはマイバッグ、その他の方には上記啓発グッズを配布する。

ごみ減量キャンペーン当日、マイバッグをお持ちでない方にはマイバッグを渡し、マイバッグをお持ちの方には上記のような啓発グッズをお渡しするのはどうでしょうか。

【C案】

引き続きマイバッグを配布する。

マイバッグを「持っている」方の割合は高くても、お買い物の際に実際に「使っている」方はまだまだ少ないのが現状ではないでしょうか。今年度制作するもののように、さらに機能や素材に工夫を加えられないか検討することも重要です。

《ごみ減量キャンペーンの年度ごとの推移》

年度	グッズ	備考
15	マイバッグ	ペットボトル再生素材
16	マイバッグ	ペットボトル再生素材
17	マイバッグ	ペットボトル再生素材
18	マイバッグ	ペットボトル再生素材
19	マイバッグ	ペットボトル再生素材
20	マイバッグ	ペットボトル再生素材
21	マイバッグ	ペットボトル再生素材
22	マイバッグ	ペットボトル再生素材
23	マイバッグ	ペットボトル再生素材
24	マイバッグ	ペットボトル再生素材
25	マイバッグ	ペットボトル再生素材
26	マイバッグ	素材にこだわらない、大きめのマイバッグ
27（案）	マイバッグ か 上記啓発グッズ	

上記3案を検討する中で、区民啓発活動部会の意見として【A案】の「マイバッグの代わりにごみ減量グッズを配布する」という結論に至った。

＜委員からの他の意見＞

- ・啓発グッズを選択制にすると、もらいたい物をもらえない方が出てきてしまうなど、トラブルの原因にもなるので1つに統一したほうがよい。
- ・それぞれが自分の好きなマイバッグを選ぶ時代になっていて、もう配布する時期ではなくなっているのではないか。
- ・アンケートの部数をもう少し増やすべきではないか。
- ・かつしかルールにつながるようなグッズにしぼるべきではないか。

参考資料 1

今後の かつしかルールの取り組み

取組年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
テーマ		雑紙	雑紙	生ごみ 雑紙	生ごみ 雑紙						
取り組む人		家庭・事業所	家庭・事業所	家庭・事業所	家庭・事業所						
内容		雑紙の分別	雑紙の分別	水きり 雑紙の分別	食べ切り 使い切り 雑紙の分別	今後のルールの検討 					

※ごみ量・・・区民1人1日あたりのごみ量

一般廃棄物処理基本計画	★計画策定					★計画見直し					
ごみ性状調査			★実施		★実施			★実施 (予定)			
ごみ量※の目標値	570g (平成21年 度ごみ量)				522g	510g	498g	486g	474g	462g	450g
		平成21年度ごみ量を基準とし、年2%の減量、10年で20%の減量									
ごみ量※		548g	547g	533g (速報値)							
ごみ量前年比		- 4g	- 1g	-13g							

2002ワールドカップ開催(平成14年)前後の23区ごみ量の推移

		H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
家庭ごみ等	ごみ量	2,590,608t	2,412,337t	2,380,309t	2,336,048t	2,332,322t	2,270,000t	2,242,988t
	対11年度比		93.1%	91.9%	90.2%	90.0%	87.6%	86.6%
事業系ごみ	ごみ量	1,010,777t	1,088,716t	1,143,448t	1,164,691t	1,155,395t	1,133,483t	1,146,628t
	対11年度比		107.7%	113.1%	115.2%	114.3%	112.1%	113.4%

※家庭ごみと集積所排出の事業者のごみは資源の分別回収を強化していた時期でもあり、ごみは減少している。

※事業系ごみはワールドカップ開催年である平成14年度が最も多い。